

B 班 地域コミュニティ活性化仕様書

1 テーマ選定の背景

(地域コミュニティの現状と課題)

市民にとって身近な自治組織である行政区等の地域コミュニティは、これまでも防災・防犯や見守り、環境美化など様々な活動において、とても重要な役割を担ってきた。

ここでいう地域コミュニティとは、地域住民が人と人との信頼関係に根ざした共同体意識を持ち、相互にコミュニケーションを取りながら地域の事柄に取り組んでいる「地域組織」

(例：自治会、町内会、行政区等のいわゆる地縁団体や小学校区等を単位として設置される校区コミュニティ組織、また自治防災区や公民館活動) のことである。

嘉麻市の場合、平成18年3月27日 嘉穂南部1市3町(山田市、碓井町、稲築町、嘉穂町)が合併して誕生した市であることから、概ね以下の(旧)小学校区別にコミュニティが存在している。

- ・旧山田市(熊ヶ畑小、上山田小、下山田小) 3地域
- ・旧稲築町(稲築西小、稲築東小) 2地域
- ・旧碓井町(碓井小) 1地域
- ・旧嘉穂町(*旧大隈小、牛隈小、*旧宮野小、*旧足白小、*旧千手小、*旧泉河内小) 6地域。
*旧5つの小学校は、平成26年4月嘉穂小学校に統合

実際、地域の問題は行政だけでは解決できない課題も多く(自主防災、環境、青少年問題など)、今後ますます多様化する地域課題への対応を強化するには、地域コミュニティの役割や重要性を改めて市民に周知し、地域活性化に向けた取組を強化する必要がある。

しかしながら、これら地域コミュニティ加入者は全国的な少子高齢化の影響で減少傾向にあり、本市でも行政区加入率低下により一部では単一行政区等では子ども会活動や敬老会等の活動ができない状況が発生し始めている。

同時に、行政区、ボランティア、NPO、各市民団体等で活動されている方々の高齢化等が進み、まちづくりの担い手の中心となる後継者不足も深刻化している。

(嘉麻市総務課調) 令和元年9月時点の行政区別加入率					
山田地区	74.8%	稲築地区	63.0%	碓井地区	63.5%
嘉穂地区	69.7%	市平均	67.2%		

(嘉麻市統計書) 令和2年12月末時点の嘉麻市データ			
・人口	36,944人	・高齢化率	39.5%

(嘉麻市の仮説と検討状況―「小さな拠点」化)

このままでは町づくり活動は縮小の一途をたどる可能性があることから、嘉麻市としては、加入者数減少、担い手不足が同時加速する中であっても、地域コミュニティを持続運営できる仕組みづくりを図る必要があると考えている。

そこで現在嘉麻市としては、少子高齢化が進む中であっても、買い物、福祉、交通手段等のサービス等を受け続けられる環境を維持するための「小さな拠点」づくり事業の検討を開始している。

「小さな拠点」づくり事業が目指すのは、小規模なコミュニティ団体や存在意義が希薄となった各団体等を整理統合し、各地域の現状等にあった一定の規模の地域コミュニティを住民のみならずと作っていくことである。

市としてはこれにより、地域住民の団体活動の労力とコストが削減され、より生産性のある有意義な活動ができるようになるほか、現在各課でバラバラに対応している行政側対応の効率性*も、格段に上がるものと考えている。

(令和2年度に小さな拠点を検討した3つの地域)

①熊ヶ畑地域(令和元年度) 人口500人、高齢化率51.4%

・熊ヶ畑地域将来計画(嘉麻市地域活性推進課)

<https://www.city.kama.lg.jp/uploaded/attachment/10152.pdf>

②千手・泉河内地域(令和元年度) 人口1,596人、高齢化率40.2%

・千手・泉河内地域将来計画(嘉麻市地域活性推進課)

<https://www.city.kama.lg.jp/uploaded/attachment/10153.pdf>

③上山田地域(令和元年度) 人口5,211人、高齢化率40.8%

・上山田地域将来計画(嘉麻市地域活性推進課)

<https://www.city.kama.lg.jp/uploaded/attachment/10156.pdf>

*各自治活動と嘉麻市の担当課

- ・行政区対応 . . . 総務課
- ・公民館、生涯学習、伝統文化 . . . 生涯学習課
- ・コミュニティ育成 企画財政課
- ・地域づくり、小さな拠点づくり . . . 地域活性推進課
- ・防災対応 . . . 防災対策課 ・敬老会 . . . 高齢者介護課
- ・環境活動 . . . 環境課 ・民生委員、児童委員 . . . 社会福祉課

《先進事例》福岡県宗像市

- ・地域の団体は1つの「地域コミュニティ」組織に統一
- ・市の担当部署（いわゆる窓口）も1つの部署に統一

<https://www.city.munakata.lg.jp/w016/040/040/010/020/20150311125643.html>

もっとも、現在の嘉麻市のステージは、宗像市のように各地域のコミュニティを1つに統合する形で実践に移された事例があるわけではなく、どのような方法論がありうるかを各地域で「議論」している状況である。

市としては宗像市のような先進モデルを目指したいと考えてはいるものの、本当にそれが最適かどうか検証できておらず、また、市の取りまとめ部署がないため、具体的な検討にまで踏み込みにくいのが実態である。

こうした中、市としては、「小さな拠点」を議論している上記3つの地域の中でも、特に人口が少なく、高齢化率の高い「熊ヶ畑地域」を対象に、一步踏み込んだ形で地域コミュニティの現状課題と今後の在り方を紐解いたうえで、地域に最適な形で効果的に「実践」に落とせる、「小さな拠点づくり」のコミュニティモデルケース（＝熊ヶ畑コミュニティモデル）」を構築、実証していきたい。

以上を踏まえ本プロジェクトでは、

地域の住民が地域コミュニティにどのような機能を期待しているのか、また、現状のコミュニティ運営のボトルネックが何で、それをどのような形で解決していくことが、最も今後の地域コミュニティ活性化*に繋がるのか等、地域住民や関係するステークホルダーの声を丁寧に拾ったうえで、

よりコンパクトに整理統合された「小さな拠点モデル」の当市モデルケースを創出すべく、新たな「熊ヶ畑コミュニティモデル」のグランドデザインを、皆さんに設計・提案頂きたい。

*地域コミュニティの活性化とは

地域活動に携わる人材の育成や新たな組織の設立等、地域コミュニティとしての活動に向けた基盤が形成され、様々な地域の課題に対応できる能力が高まる状態を地域コミュニティの活性化と捉えている。

- ・住民同士の相互扶助（お互いの助け合い）
- ・住民と行政の協働（地域住民の自己責任、自己決定、自己実現、パートナーシップ）

2 プロジェクトで提案・検討頂きたいこと

前述のとおり、これからの時代の地域コミュニティ活性化のため、市としては（福岡県宗像市のように）各団体等の整理統合を加速することが有用ではないかと考えているが、これは未だ単なる仮説でしかない。

本プロジェクトでは、人口500人、高齢化率51.4%（令和元年データ）と少子高齢化、過疎化が進展している「熊ヶ畑小学校区」を対象に、地域住民のヒアリングを丁寧に行って頂き、

この仮説に関する有効性、課題、実現可能性等を詳らかにしたうえで、地域住民の大多数（70%以上）から支持され、実証にも移すことができる、画期的な「熊ヶ畑コミュニティモデル」のランドデザインを、その理由とともに提案いただきたい。

なお、提案が採択された場合には、提案内容について、市が対象地区に説明会を行う予定。その際には、遠隔で学生のみなさまから説明をお願いしたい（説明会は、令和4年10月～11月の日曜日に開催予定）。

説明会后、熊ヶ畑コミュニティモデルについて、市が対象地域の全住民にアンケート（熊ヶ畑地域全世帯約250世帯を対象）を実施する。その際には、70%以上の人から肯定的に回答されるよう、あらかじめ地元の皆さんのニーズと課題を深く理解し、地元強く支持され得る仕組みを設計・提案頂きたい。

具体的に検討頂きたい点は以下のとおり。

1) 熊ヶ畑小学校区におけるコミュニティ組織の現状と本質課題の特定

熊ヶ畑小学校区の地域メンバー、コミュニティ運営主体者や一般住民の方々に丁寧にヒアリング調査頂き、現コミュニティのどこにどのくらいの大きさの課題が、なぜ横たわっているのか。地域住民の潜在ニーズ・コミュニティへの役割期待と現状とのギャップや、これからの持続可能性に関わる問題を具体的に構造化したうえで、今後効果的・効率的にコミュニティ運営を持続していくうえで解決すべき本質課題を特定頂きたい。

（深堀頂きたい問いの例）

- ・地域住民にとって、現状のコミュニティ活動の意義・活動成果はどう見えているのか。理想の状態とのギャップがあるとすれば、具体的に何で、それはなぜそう感じているのか。
- ・運営主体者や行政担当が感じている負担・課題感がどこにあるのか。またその負担や課題は、コミュニティ運営や地域にもたらす期待成果にどう影響しているか。
- ・地域住民が潜在的な必要性を感じ、維持・継続させるべき（または新たに追加すべき）と思っているコミュニティ機能とは何か。またそれはなぜか。
- ・地域住民がコミュニティに参加した際に「面倒くさい」「嫌だな」「不要だ」と思う要素とは何か。それはなぜか。等
- ・熊ヶ畑地域において、地域コミュニティが「活性化」し、地域住民の期待通りの機能を担いながら、効果的に維持継続されていくために、最も解決しなければならない本質課題とは何か。

《現状分析参考》

※令和4年7月に熊ヶ畑地域活動について全世帯を対象にアンケート実施中（令和4年8月中旬までに回収、データ化完了予定）。アンケート調査票は、「資料8 熊ヶ畑地域活動についてのアンケートのお願い」のとおり。

※令和4年8月22日（月）、19時～21時、熊ヶ畑地域小さな拠点メンバーとの意見交換会（ワークショップ）を実施予定。（参加予定者：行政区長、公民館長、民生委員、トロッコフェスタ委員等）

2) 熊ヶ畑小学校区におけるコミュニティ組織のあるべき姿と持続可能な設計

上記プロセスで浮彫りになった、地域住民の潜在ニーズや、現コミュニティの在り方/運営方法に関する本質課題を踏まえたとき、地域住民や関係者の強い支持を得ながら、それら課題を現

実的かつ一気に解決していくには、「熊ヶ畑小学校区の新コミュニティモデル」のグランドデザインは、どのように設計し、どう打ち出していくべきか。

地域住民の方々の最新のニーズ、当該地域が大切にしている文化、目指したいと思っている地域コミュニティの姿、そして、現コミュニティ機能を担っている各人の方々の想いや直面している課題のリアルをそれぞれ十分に理解したうえで、既成概念に囚われない独自の発想を組み合わせ、現状に風穴を開けうる画期的な（決して机上の空論ではない）コミュニティモデルを、具体的に提案頂きたい。

(深掘頂きたい問いの例)

・宗像市等の先進事例のように、現状地域に多数存在する地域活動・地域組織をシンプルにスリム化、合理化すべきなのか（やるとしたらどううまく設計すべきなのか）、もしくは、そうした先端事例を参考にしつつも、熊ヶ畑ならではの独自の発想で、新たなコミュニティの枠組みをグランドデザインすべきなのか。それはなぜか。

・現在の熊ヶ畑の状況が、提案いただく「新たな熊ヶ畑コミュニティモデル」に変化した場合には、地域にどのようなインパクト・効果がもたらされるのか（住民満足度や効率化によって生じる時間コスト等、ある程度インパクトを指標化・試算頂きたい）

・新たな熊ヶ畑コミュニティモデルを実際実現するためにはどのようなスキーム、枠組み、リソースが必要か。また持続可能な形で運営し、期待される機能を果たし続けるために、整えるべき必要要件は何か。

3) 留意頂きたい制約条件

提案内容の実現に向けて、市の年間予算や投下できる人員数の制約条件は、以下のとおり。

- ・予算総額（3年間）100万円程度
- ・投下できる人員：2人程度

以上

----- 資料編 -----

※嘉麻市関係資料

◆添付資料

- ・資料1 地域コミュニティ課課題等(嘉麻市総務課)
- ・資料2 地域コミュニティ課課題等(嘉麻市企画財政課)
- ・資料3 地域コミュニティ課課題等(嘉麻市生涯学習課)
- ・資料4 嘉麻市統計書(令和3年4月改訂版、嘉麻市企画財政課)
- ・資料5 地域づくりに関するアンケート集計結果(令和3年9月、嘉麻市地域活性推進課)
- ・資料6 総合計画に関する住民意向調査調査結果(平成18年10月、嘉麻市企画財政課)
- ・資料7 公民館に関するアンケート(平成29年、嘉麻市生涯学習課)
- ・資料8 熊ヶ畑地域活動についてのアンケートのお願い(令和4年、嘉麻市地域活性推進課)

※嘉麻市外の事例、レポート等

◆添付資料(ネット検索参考資料)

- ・資料9 令和3年総務省調 自治会・町内会の活動の持続可能性について
- ・資料10 京都市事例 地域コミュニティ懇話会資料
- ・資料11 他市自治会事例 自治会がなくなるとどうなるでしょうか
- ・資料12 富山県の事例 新しい時代におけるコミュニティの姿(役割)の設定